

令和元年度

市政モニターアンケート調査結果
【 バリアフリーのまちづくりについて 】



長 崎 市
土木企画課

1. 調査の目的

本市におきましては、高齢者・障害者をはじめ、妊産婦、けが人も安心して快適に過ごせるまちづくりを行うため「長崎市バリアフリー基本構想」を策定し、多くの人が移動する経路のバリアフリー化に取り組んでいます。

今後、更なるバリアフリー化を推進するため、「第2期長崎市バリアフリー基本構想」及び「長崎市バリアフリーマスタープラン」を策定することとしています。

これらの策定にあたって、市民の皆様がバリアフリーに対して感じていることや、日頃よく利用する施設などの現状を把握するため、アンケート調査を実施しました。

2. 調査の概要

調査期間：令和元年5月30日～令和元年6月13日

送付数：227人（郵送モニター 186人 インターネットモニター 41人）

回答率：73.6%（167人）

（郵送モニター 156人 インターネットモニター 11人）

3. 調査結果

今回の調査で、皆様が日ごろ利用する施設のうち、バリアフリー化が最も進んでいると感じる施設は「医療・福祉施設」で、最も進んでいないと感じる施設は「歩道」であることがわかりました。また、バリアフリー化が進むと便利になると思う施設は、「医療・福祉施設」と「歩道」が一番多い結果となりました。

この結果から、バリアフリー化が望まれる「医療・福祉施設」と「歩道」のうち、特に「歩道」のバリアフリー化が遅れているものと考えられます。

次に、公共交通機関のバリアフリー化については、近年、徐々に増えている超低床式路面電車やワンステップバス、ノンステップバスの導入により、「乗り降りがしやすくなった」と感じている方が多い結果となりました。

また、現在の「長崎市バリアフリー基本構想」について、「知らない」又は「あまり知らない」と答えた方の割合が9割を超える結果となり、皆様にあまり認知されていないことがわかりました。

今年度から策定作業に着手する「第2期長崎市バリアフリー基本構想」及び「長崎市バリアフリーマスタープラン」では、市政モニターアンケート調査に加え、高齢者・障害者団体等へのヒアリングやまち歩きワークショップ等を行い利用者側のニーズを十分把握し、利用者の満足度の向上に繋がる計画策定に努めます。

4. 調査結果の見方

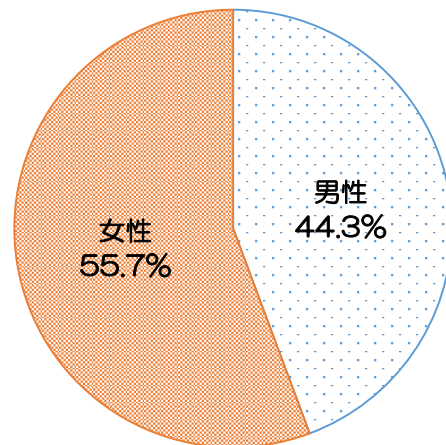
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる間については、回答者数の数を「n=〇〇人」で表現しています。

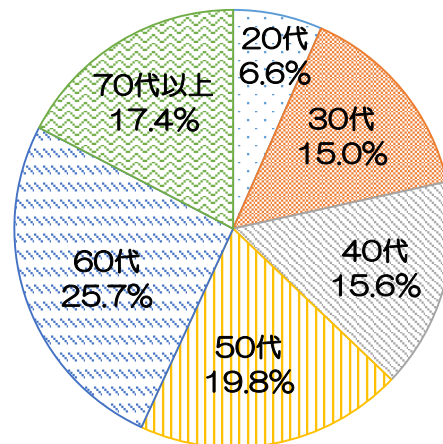
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	74人	44.3%
女性	93人	55.7%
合計	167人	100.0%



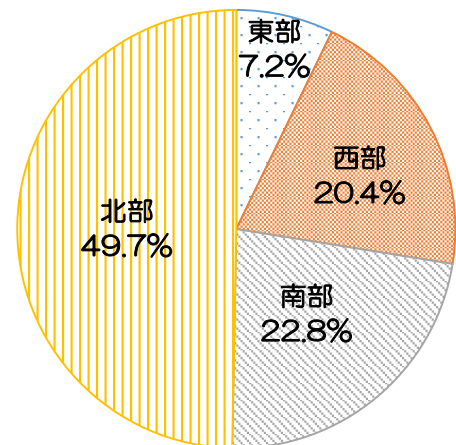
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	11人	6.6%
30代	25人	15.0%
40代	26人	15.6%
50代	33人	19.8%
60代	43人	25.7%
70代以上	29人	17.4%
合計	167人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

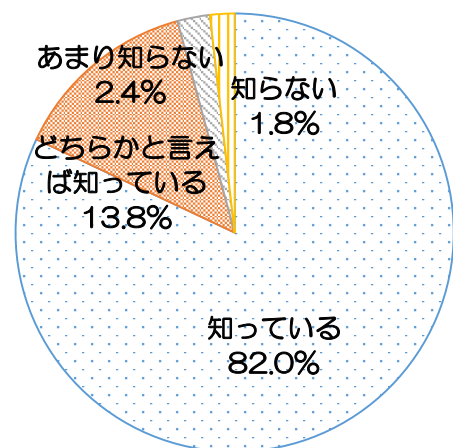
選択肢	回答者数	割合
東部	12人	7.2%
西部	34人	20.4%
南部	38人	22.8%
北部	83人	49.7%
合計	167人	100.0%



※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

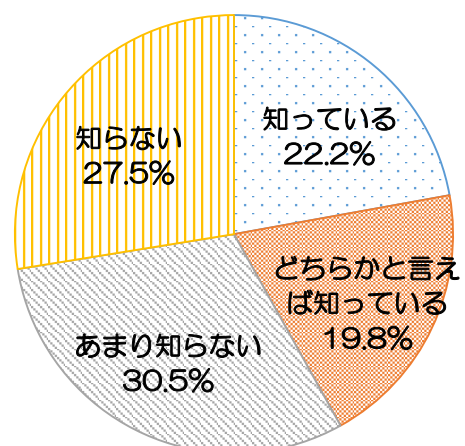
問4 あなたは、「バリアフリー」という言葉とその意味を知っていますか。

選択肢	回答者数	割合
知っている	137人	82.0%
どちらかと言えば知っている	23人	13.8%
あまり知らない	4人	2.4%
知らない(初めて聞いた)	3人	1.8%
合計	167人	100.0%



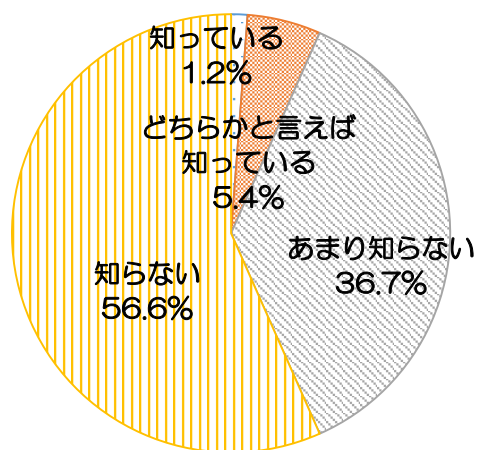
問5 あなたは、「心のバリアフリー」という言葉とその意味を知っていますか。

選択肢	回答者数	割合
知っている	37人	22.2%
どちらかと言えば知っている	33人	19.8%
あまり知らない	51人	30.5%
知らない(初めて聞いた)	46人	27.5%
合計	167人	100.0%



問6 あなたは、「長崎市バリアフリー基本構想」とその内容を知っていますか。

選択肢	回答者数	割合
知っている	2人	1.2%
どちらかと言えば知っている	9人	5.4%
あまり知らない	61人	36.7%
知らない (初めて聞いた)	94人	56.6%
合計	166人	100.0%

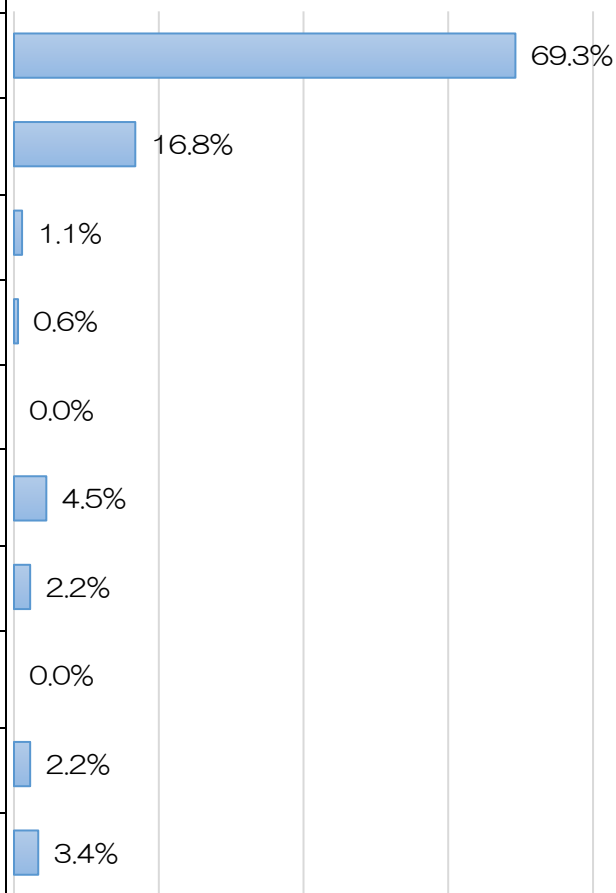


(無回答 1人)

「長崎市バリアフリー基本構想」とその内容について、「知らない」又は「あまり知らない」と答えた方の割合が9割を超える結果となり、皆様にあまり認知されていないことがわかりました。

問7 あなたは、体に不自由なところがありますか。【複数回答可】

選択肢	回答者数	割合
特にない	124人	69.3%
慢性的な関節痛 (腰や膝が痛いなど)	30人	16.8%
足のケガ	2人	1.1%
歩行障害	1人	0.6%
肢体不自由	0人	0.0%
内部障害 (臓器の障害など)	8人	4.5%
聴覚・平衡機能障害	4人	2.2%
音声・言語・ そしゃく機能障害	0人	0.0%
視覚障害	4人	2.2%
その他(※1)	6人	3.4%

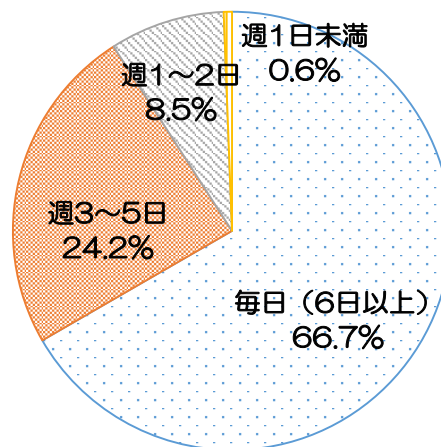


回答者数 167人、有効回答数 179

(※1) 高血圧、前立腺肥大、上肢・下肢機能障害など

問8 あなたの外出頻度を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
毎日（6日以上）	110人	66.7%
週3～5日	40人	24.2%
週1～2日	14人	8.5%
週1日未満	1人	0.6%
合計	165人	100.0%

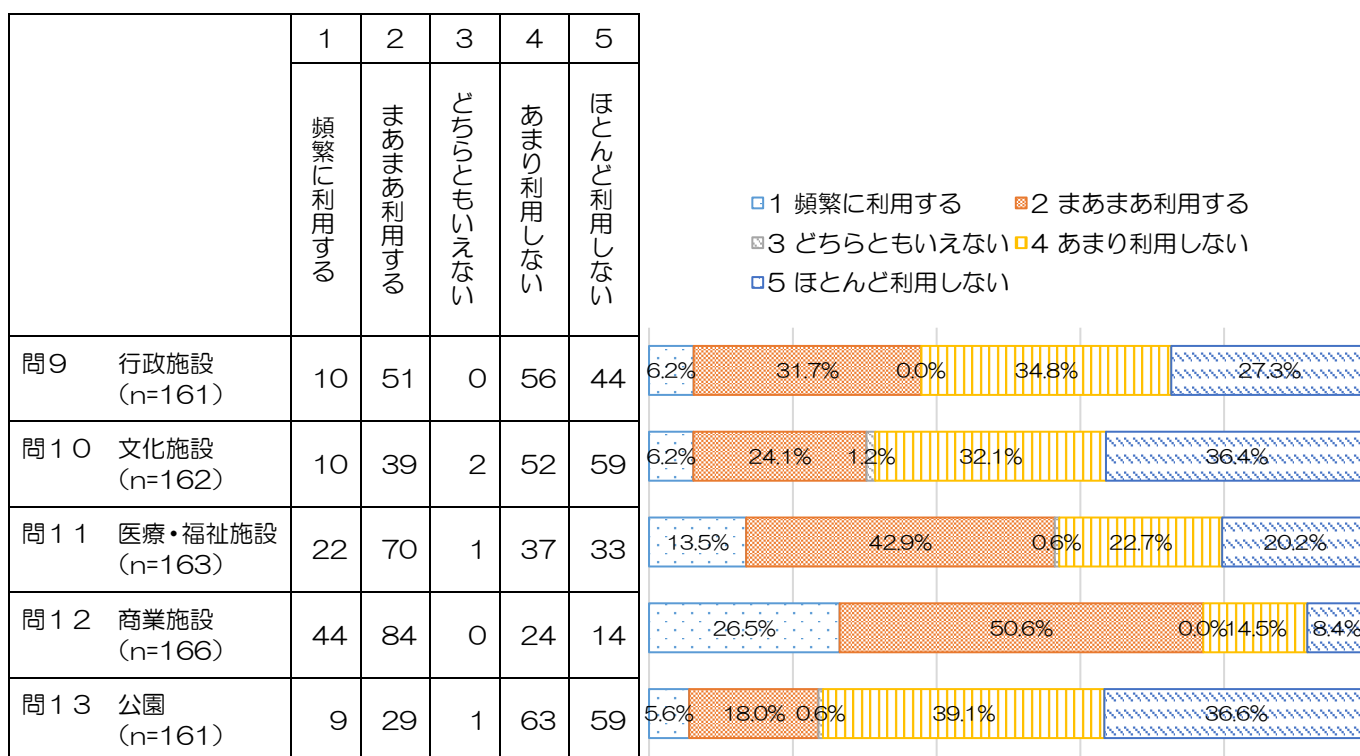


（無回答2人）

問9～問13

次の施設をどの頻度で利用しますか。1～5のうち該当する項目に○を付けてください。

- 行政施設（県庁、市役所、警察署、郵便局、税務署など）
- 文化施設（市民会館、市立図書館、県美術館、歴史文化博物館、ブリックホール、長崎新聞社文化ホール、NCC&スタジオ、原爆資料館など）
- 医療・福祉施設（病院・診療所、老人ホーム・福祉ホーム、福祉センターなど）
- 商業施設（アミュプラザ長崎、ゆめタウン夢彩都、浜屋百貨店、みらい長崎ココウォークなど）
- 公園（長崎水辺の森公園、平和公園など）

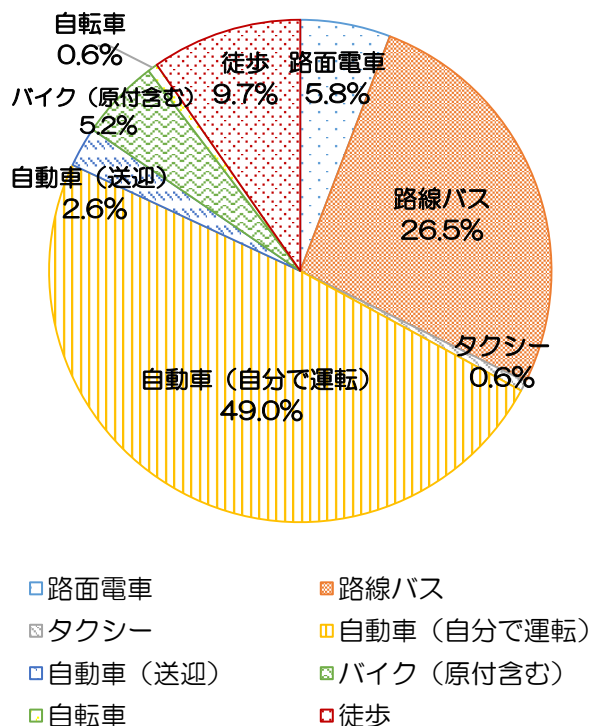


「商業施設を利用する方」が最も多く、「公園を利用する方」が最も少ない結果となりました。

問14 あなたが日ごろ、最も多く利用している交通手段を1つ選択してください。

選択肢	回答者数	割合
JR	0人	0%
路面電車	9人	5.8%
路線バス	41人	26.5%
タクシー	1人	0.6%
自動車（自分で運転）	76人	49.0%
自動車（送迎）	4人	2.6%
バイク（原付含む）	8人	5.2%
自転車	1人	0.6%
徒歩	15人	9.7%
その他	0人	0.0%
合計	155人	100.0%

(無回答 12人)



問15 問14で答えた交通手段への乗り降りについて、どのような点が不便と感じますか。

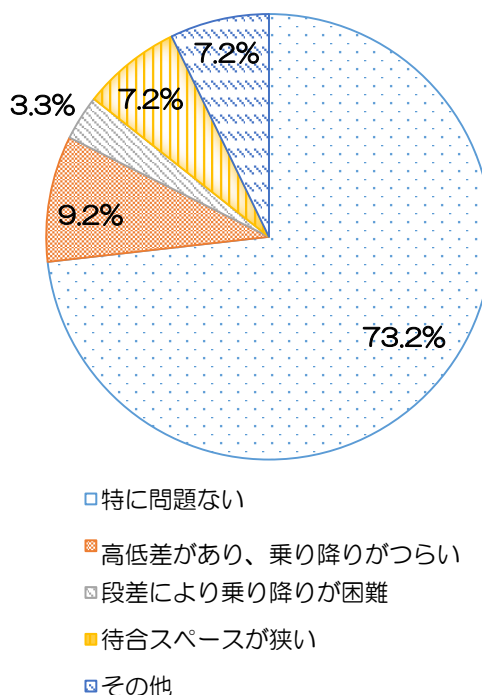
【複数回答可】

選択肢	回答者数	割合
特に問題ない	112人	73.2%
高低差があり、乗り降りがづらい	14人	9.2%
段差により乗り降りが困難	5人	3.3%
待合スペースが狭い	11人	7.2%
その他※2	11人	7.2%

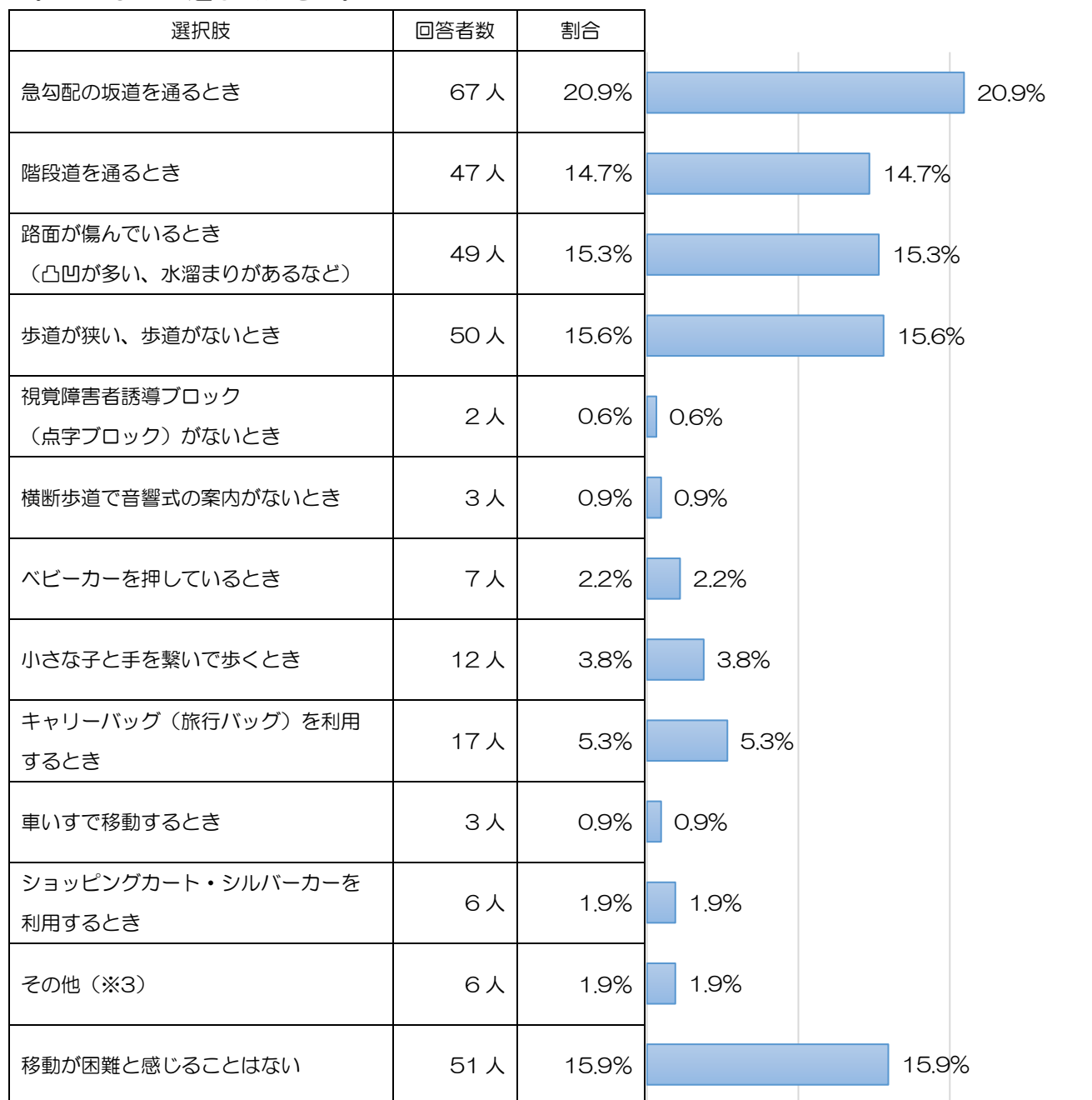
回答者数 145人、有効回答数 153

(※2)

- ・バス停や待合スペースにベンチが少ない。
- ・バス停に屋根がない。 ・など



問16 自宅から最寄りの公共交通機関までの間、移動が不便と感じるときはどんなときですか。3つまでお選びください。



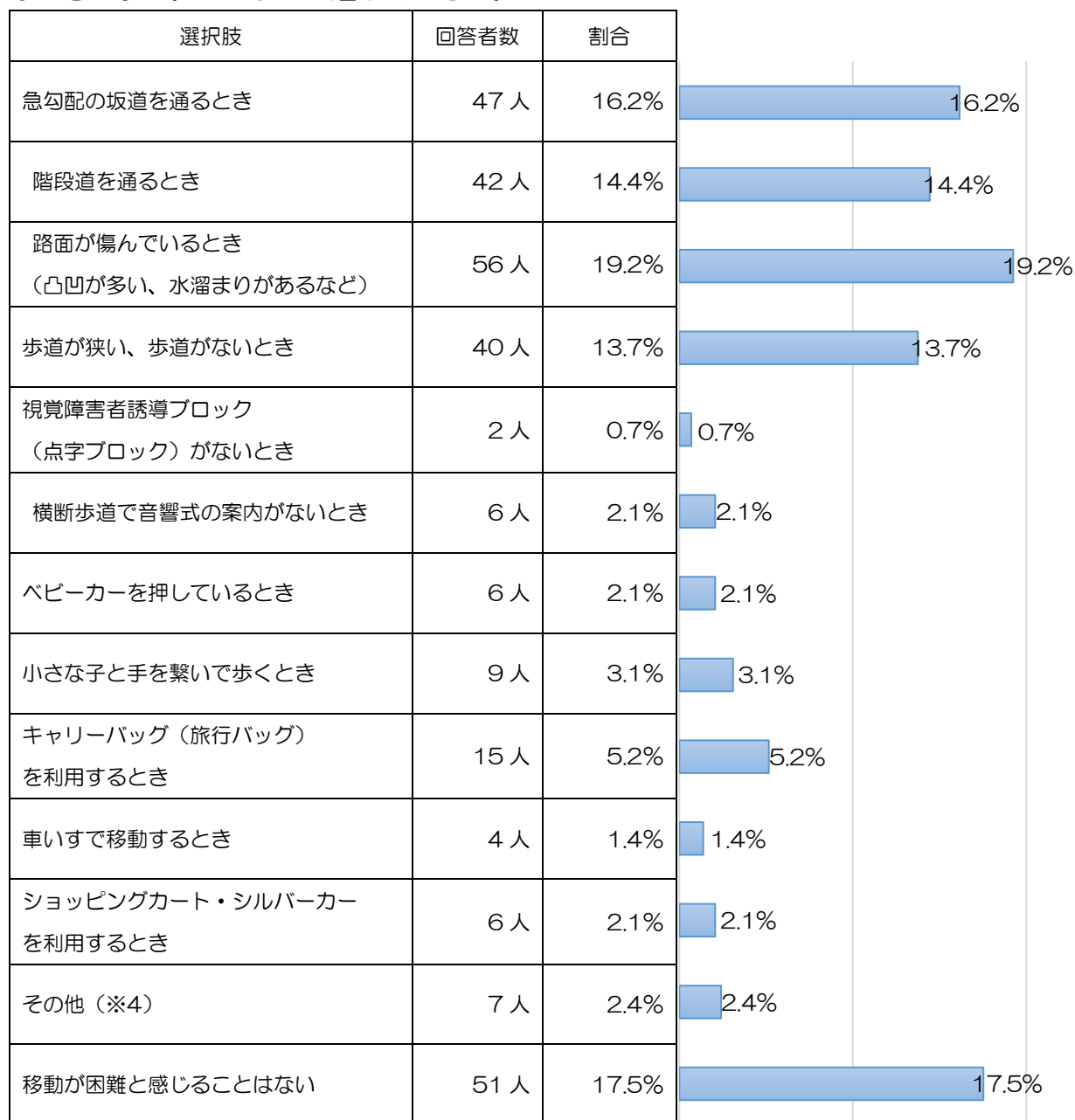
回答者数 164人、有効回答数 320 (無回答3人)

(※3)

- ・距離が遠い
- ・狭い道路に溝があり、高齢者の転落事故が発生している・・・など

自宅から最寄りの公共交通機関までの間、移動が不便と感じるのは、「急勾配の坂道を通るとき」が最も多く、続いて「歩道が狭いとき」や「路面が傷んでいるとき」が多い結果となりました。

問17 公共交通機関とよく利用する施設の間を移動する際、移動が困難と感じるときはどんなときですか。3つまでお選びください。



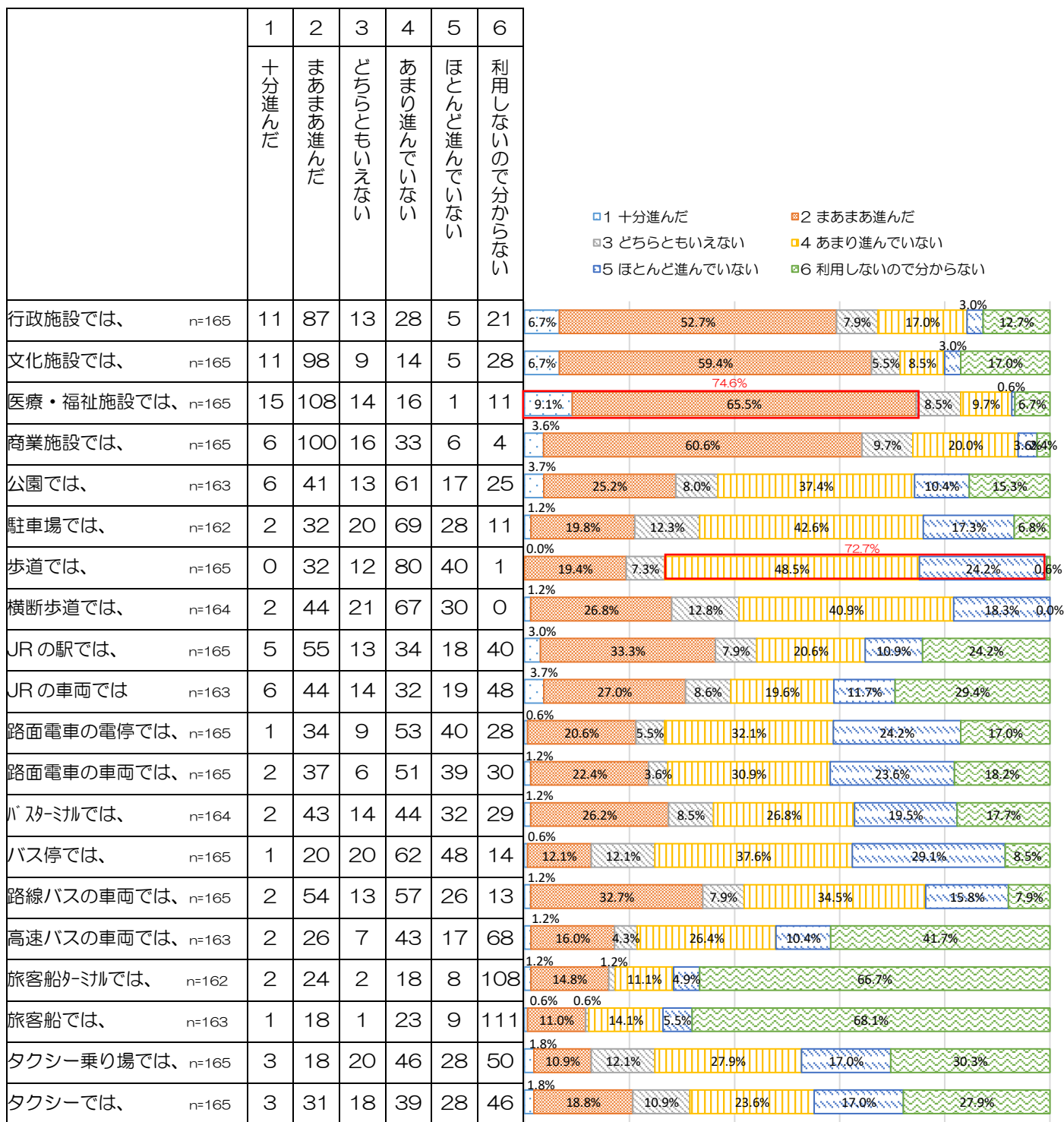
回答者数 150人、有効回答数 291 (無回答 17人)

(※4)

- 歩道で話し込む人がいるとき
- 歩行者信号のない道を渡るとき
- エレベーターがない・・・など

公共交通機関とよく利用する施設の間を移動する際、移動が不便と感じるのは、「路面が傷んでいるとき」が最も多く、続いて「急勾配の坂道を通るとき」が多い結果となりました。

問18～問37 あなたは、下の表のそれぞれの施設等を利用する際に、どの程度バリアフリー化が進んだと思いますか。1～6のうち該当する評価項目に○を付けてください。



皆様が日頃利用する施設のうち、バリアフリー化が最も進んでいると感じる施設は「医療・福祉施設」で、最も進んでいないと感じる施設は「歩道」であることがわかりました。

問38 近年、超低床式路面電車が増えましたが、路面電車が利用しやすくなったと感じますか。

選択肢	回答者数	割合
超低床式路面電車が増え、乗り降りしやすくなったと感じる	58人	35.2%
従来型の方が良かった	3人	1.8%
導入台数が少なく乗る機会が少ないため、わからない	46人	27.9%
路面電車に乗る機会がない	51人	30.9%
その他(※5)	7人	4.2%
計	165人	100.0%

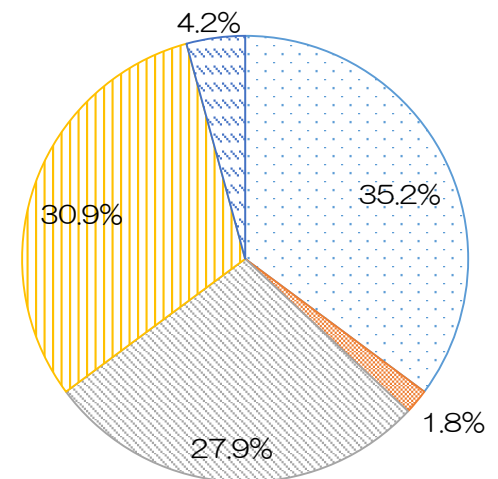
(無回答 2人)

(※5)

- 低くなった分、つまり等々の心配は減ったが、混んでいる時の車内移動は不便
- 便数を増やした方がいい
- 乗り降りしやすいが、立っていると狭く感じる
- 宝町の電停はバリアフリーに対応していない・・・など



超低床式路面電車



- 超低床式路面電車が増え、乗り降りしやすくなったと感じる
- 従来型の方が良かった
- ▨ 導入台数が少なく乗る機会が少ないため、わからない
- 路面電車に乗る機会がない
- その他

公共交通機関のバリアフリー化については、近年、徐々に増えている超低床式路面電車の導入により、「乗り降りしやすくなった」と感じている方が多い結果となりました。一方で、「導入台数が少なく乗る機会が少ない」と答えた方が約28%いました。

問39 近年、ワンステップバス、ノンステップバスが普及しましたが、路線バスが利用しやすくなったと感じますか。

選択肢	回答者数	割合
ワンステップバスやノンステップバスの普及により、乗り降りしやすくなった	90人	55.2%
ワンステップバス、ノンステップバスも従来型とあまり変わらない	18人	11.0%
従来型の方が良かった	2人	1.2%
導入台数が少なく乗る機会が少ないため、わからない	26人	16.0%
路線バスに乗る機会がない	23人	14.1%
その他(※6)	4人	2.5%
計	163人	100.0%

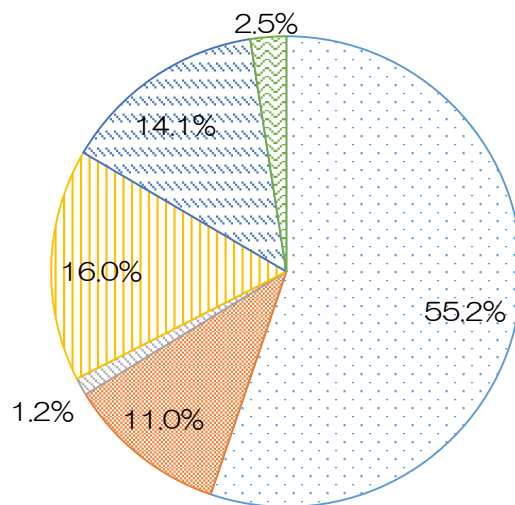
(無回答 4人)

(※6)

- 全てのバスをワンステップバスにして欲しい
- ミニバスにしか乗っていない
- 乗り降りは便利だが、高齢者や子供にとって座席の高い席は座りづらい
- 乗り降りしやすくなったが、座席数が減少した気がする・・・など



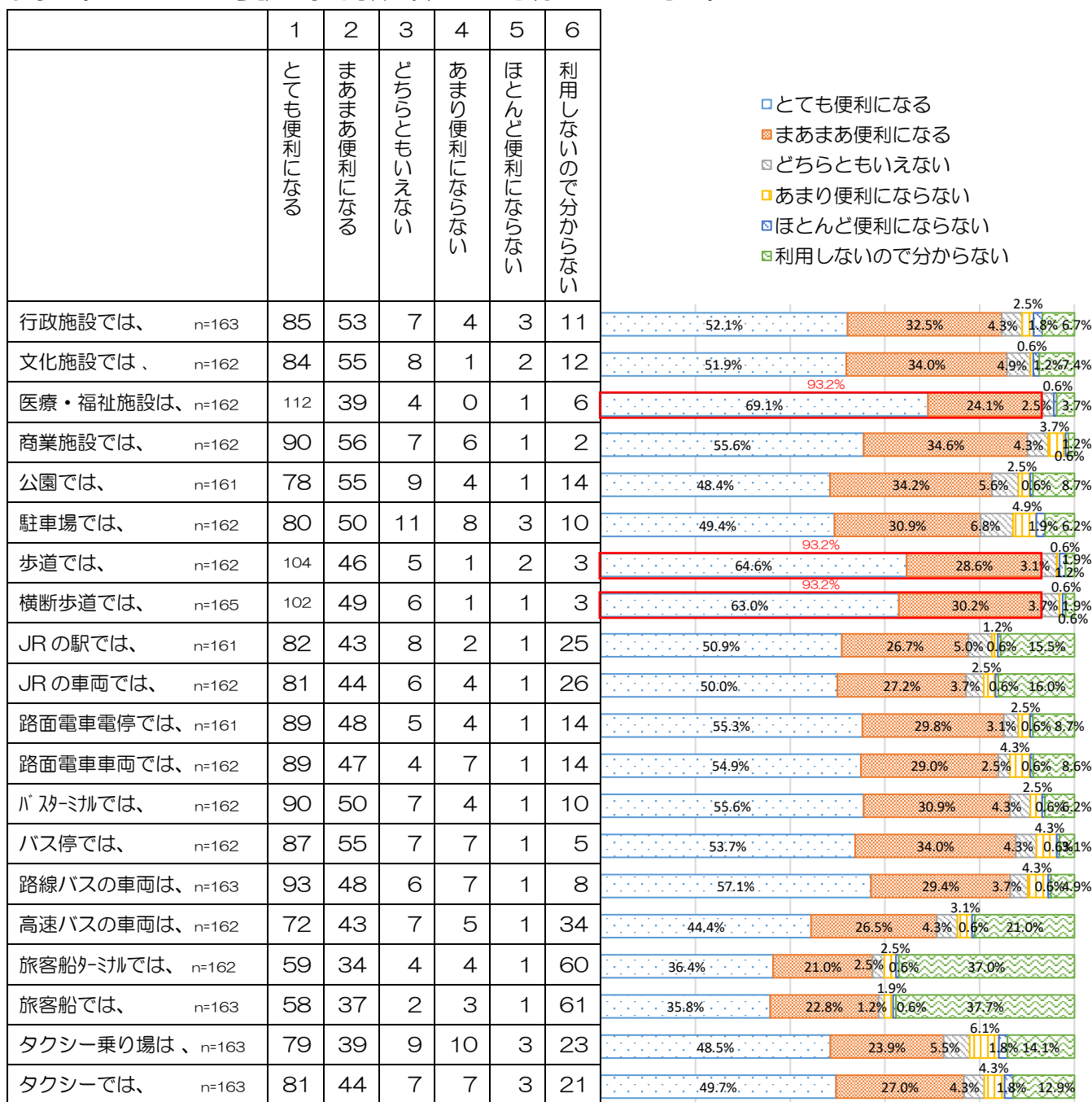
ノンステップバス



- ワンステップバスやノンステップバスの普及により、乗り降りしやすくなった
- ワンステップバス、ノンステップバスも従来型とあまり変わらない
- ▨ 従来型の方が良かった
- 導入台数が少なく乗る機会が少ないため、わからない
- ▨ 路線バスに乗る機会がない
- その他

近年、徐々に増えているワンステップバス、ノンステップバスの導入により、「乗り降りしやすくなった」と感じている方が多い結果となりました。

問40～59 あなたは、次の施設等のバリアフリー化が進むと、どの程度便利になると思いますか。1～6のうち該当する評価項目に○を付けてください。



バリアフリー化により便利になると期待される施設は、「医療・福祉施設」と「歩道」が一番多い結果となりました。

問60 長崎市のバリアフリー施策に関する意見がある場合は、記述してください。(自由記述)

○市民意識に関する意見

- ・ 車イス利用者へのバリアフリー化はエレベーター、公共施設、公共交通など、改善されている。
- ・ 車椅子でどこでも行けるようになれば、外出が増える。
- ・ 不自由のある方でも自由に色々な場所に行ける施設があると、閉じこもりがなくなると思う。
- ・ バリアフリー化が進むことを熱望するが、それを当たり前とする気持ちが強過ぎても良くない。
- ・ バリアフリーを必要としない人にこの施策を理解していただくことが大事。私も77才、出来る限り人の手を借りないよう心掛けている。
- ・ 障害者(身内)を車イスで病院まで移動させる際、ほとんど歩道であるが、横断歩道のバリアフリー化がなされていないことを実感した。
- ・ スーパーのバリアフリーが進んでないと感じる。
- ・ スロープも勾配が急だと感じることがある。「それでもないよりはすいぶんマシだ」という年寄りの方の声を聞くとこのままでいいのかと悲しくなる時がある。
- ・ エレベーターが増えたと思うが距離が遠い。年寄りを連れて行く時にいつもエレベーターまで遠回りをさせられているように感じる。
- ・ 現在利用している施設に限っては、不便なことはほとんどない。

○バリアフリー施策に関する意見

- ・ 公共施設は特に優先してバリアフリー化すべき。
- ・ 横断歩道やエスカレーターはまだ多くのバリアフリー化が必要と思う。
- ・ 大きな施設は整備が進んでいるが、小さな施設は進んでいないように感じる。
- ・ ブリックホールの入口はスロープやエレベーターがあり、車イスの方も利用しやすいが、施設内のバリアフリー化はまだ整っていない気がする。
- ・ 『観光長崎+人にやさしい長崎』バリアフリー施策は一層進めるべきと思う。坂の多い観光地では、高齢者や障害者のため、電動車イスの貸し出しも一考を。
- ・ 高齢化が進んでいるので、もっと早く確実にバリアフリーを進めてもらいたい。
- ・ 全てのバリアフリーができていたら、住みやすくなると思う。
- ・ 個人的にも(年をとっていく) 仕事のにも(介護職)バリアフリー化が進むことを望んでいる。
- ・ 長崎市のバリアフリー基本構想の計画期間が平成25年～令和2年までになっているので計画通りに、又は計画前倒しを実施し、早期の完成をしていただきたい。
- ・ 体が不自由でない人もバリアフリー化が進むと、もっと住みよい長崎になると思う。
- ・ 全てをバリアフリー化する必要はない。困っている人に声をかけ、手助けする環境づくり

が大事と思う。

- ・ 高齢者は交通の便の悪い坂や階段の多い高台に住んでいるので、広い範囲を見て欲しい。
- ・ 坂道、階段の多さ、車道・歩道の狭さ、駐車場の狭さ・少なさへの対策をしてもらいたい。
- ・ バリアフリー化を進めて、住みやすい町になって欲しい。
- ・ 相手の目線に寄り添った施策を希望する。
- ・ 市の公共施設のバリアフリー化がまだまだ進んでいないと思う。
- ・ 長崎は歩道も狭く段差も多くベビーカーを使用できない場所が多い。また、路面電車も子育てする側からすると段差も高いし、入口にベビーカーをおけるスペースがないので利用しづらい。子育てしにくい町だと人口流出は続くだろうと感じる。子育て世代の意見を大切に、本腰入れて頑張ってもらいたい。
- ・ 中心部ばかりバリアフリー化するのではなく、周辺の地域もバリアフリーされれば身体が不自由な方や高齢者も外出しやすくなると思う。
- ・ 公共の道路、施設、トイレにしても、まだまだバリアフリーが進んでいないと思う。
- ・ バリアフリー化はまだまだ進んでない。中心地がどんなに便利になっても、年寄りが多く住む場所が生活の不便さを感じている。坂の町なので、外出が辛い。この町ならではのバリアフリー化を進めて欲しい。

○バリアフリー化の課題に関する意見

- ・ バリアフリーは良い事だが、老人が点字ブロックの凸凹に躓いたり、滑ったりする問題もある。
- ・ 視覚障害者のために歩道に凹凸があるが、少し歩きづらい。凹凸でなくても、地面の素材をかえれば判断がつくと聞いたことがある。
- ・ バリアフリー化は、とても良いことと思う。ただ、財政難なので、一気にやるのではなく順序立てて進めて欲しい。
- ・ これからますます高齢化が進み、車いすや杖を必要とする人が多くなると思うが、地形上の問題や財政面の問題によりバリアフリー化できないこともあると思うので、新設する際のバリアフリー化を徹底した方がいい。
- ・ 長崎の狭い道路事情の中で、バリアフリー施策に対してメリットがあるとは思えない。それよりもそこに居合わせた人が、もっと親切に対応すればよい。
- ・ バリアフリー化によって便利さは増すが、費用が問題となると思う。税金の捻出方法は慎重に検討して欲しい。

○道路に関する意見

- ・ 生活道路・通学路の凸凹を早急に直して欲しい。
- ・ 歩道の凸凹や段差がどこも多すぎる。年を取ると、わずかな段差でもつまずく。
- ・ 施設、乗り物がバリアフリー化され利用しやすくなっても、そこに行くまでの経路がバリアフリー化されていないと、役に立たない。

- ・ 歩道の階段や急勾配の坂道に手摺をつけて欲しい。
- ・ 国道 202 号の飽の浦峠から福田本町の間において車幅・歩道幅が狭くて、非常に危険である。特に、歩道を拡幅して欲しい。
- ・ 施設や施設の周辺だけでなく、家から施設までの道の見直しを、もっと進めて欲しい。
- ・ 道路に点字ブロックが少ない。
- ・ 歩道の幅を広くして欲しい。シルバーカーを利用するところが増えている。
- ・ 双子のベビーカー（横型）が通行しづらい。
- ・ 長崎は他県に比べて道路が狭く、凸凹が多い。歩道のバリアフリー化はあまり進んでないように感じる。
- ・ 長崎市は全体的に道幅が狭く、体の不自由な方はとても移動しづらいと思う。車いすの友人を連れて行ったときに、道路がガタガタでとても苦労した。
- ・ 車イスの人を介助する際に、歩道の幅が狭く凸凹道で危険と感じた。
- ・ 歩道の段差あるいは舗装の欠陥も危険。

○公共交通機関に関する意見

- ・ 年齢的に足が上がらないので、バス、電車、JR 等の乗り降りが一番気になる。ワンステップ、ノンステップは非常に助かる。
- ・ ワンステップバスやノンステップバスが増えるといい。
- ・ 新しいバスは乗り降りしやすいが、中が利用しやすくなったかどうかは疑問。
- ・ バス、電車は、とても乗りやすくなった。まだ私自身が健康で、あまり不便を感じていないので気が付かないのかもしれない。
- ・ 電車、バスなどの乗降口が高い。
- ・ バスと電車を利用するが、お年寄りや小さな子連れは大変そうである。
- ・ 東京でベビーカーと一緒に電車から降りる際、前輪が電車とホームの間にはまり、とても恐かった。
- ・ バスが満員の時、高齢者や赤ちゃんを抱えた母親がいたにも関わらず、学生さんが席を譲ることはなかった。バス運転者は、遠慮せずにマイクで言って欲しい。
- ・ 改札、エレベーターの幅が狭い。

○心のバリアフリーに関する意見

- ・ 市民が自然に接することのできる環境作りも必要。
- ・ 色んな人を理解できる場（交流会、講座、学校教育）があった方がいい。
- ・ 市民の意識（優しさ、気配り等）が変わるように啓発してほしい。

○バリアフリーの情報発信に関する意見

- ・ 長崎市の施策に触れる機会がないため、長崎市が何に取り組もうとしているのかわからない。様々な方法で情報を発信してもらいたい。

○モラルやマナーに関する意見

- ・ バリアフリー化が進んでも、使う側の理解やモラルの向上が進まないと意味が無い。歩きスマホをする人、横に広がってダラダラ歩く人、逆走する自転車、あまり周りを確認せずに駐車場を出入りする車、横断歩道に立っても停まらない車がいる…。
- ・ 歩きタバコも多い。中途半端に禁止区域を設けるのではなく、全区域禁止した方がいい。
- ・ バリアフリー施策の前に人としてのマナーも問題である。

○その他の意見

- ・ 母(92才)と病院帰りに浜町アーケードを歩く際に、休めるベンチがほとんどない。
- ・ アンケートにバリアフリーの意味を明確に書いて欲しかった。個人の立場と障害者等の立場を考えた場合では、評価項目が相違しそう。
- ・ 高齢化社会なのにデパートの各フロアにベンチがなくて残念。
- ・ バリアフリー施策も必要と思うが、階段に白ペンキを塗る等の安全対策や、公園トイレの清掃等の衛生面の配慮が欲しい。
- ・ 家野町公園で不便を感じている。公園なのにボール遊びが出来ない。サッカーボールやキャッチボールができない公園って今の時代あり得るのか？
- ・ 市役所、市議会棟に洋式のトイレが少ない。
- ・ 市内に数か所残る歩道橋は撤去してもらいたい。歩道橋は障害者にとっては利用困難。
- ・ 水辺の森公園のような気持の良い公園を多く作ってもらいたい。
- ・ 歩道をまたいで車が駐車されていると一時的に車道を歩かないと前に進めず、特に車椅子やベビーカーの方は危険。
- ・ 市民会館の大ホールのトイレがほとんど和式であることに驚いた。その日はお年寄りが多く、一つしかない洋式トイレに長蛇の列だった。改善して欲しい。
- ・ 長崎の街は電車の都合上道路が狭いため運転しにくい。
- ・ 旧来の斜面住宅地（道路含む）を再整備すべき。古い家屋を整備し道路を拡張すれば、町が格段に活性化されると思う。
- ・ 交通が不便で老人が困っている。田舎でも住みやすい環境にすることで若者の流出を防ぐことにつながると思う。交通が悪いところへの電気自転車貸与、老人へのセンファア貸与など、長崎独自のサービスを展開して欲しい。
- ・ 高齢者の通行が多い横断歩道の青信号が短いと感じるときがある。
- ・ 坂道にテスリを設置して欲しい。
- ・ 大学病院への道のりと駐車場が使いづらい。

参 考

「問18～問37」と「問40～59」の調査結果に基づき、項目ごとのバリアフリーに関する「実感度」と「期待度」について、散布図に表しました。

【算出方法】

問18～問37：「施設等を利用する際に、どの程度バリアフリー化が進んだと思いますか」

→バリアフリー化の「実感度」

上記の問18～問37について、次のとおり「平均スコア」を算出する。

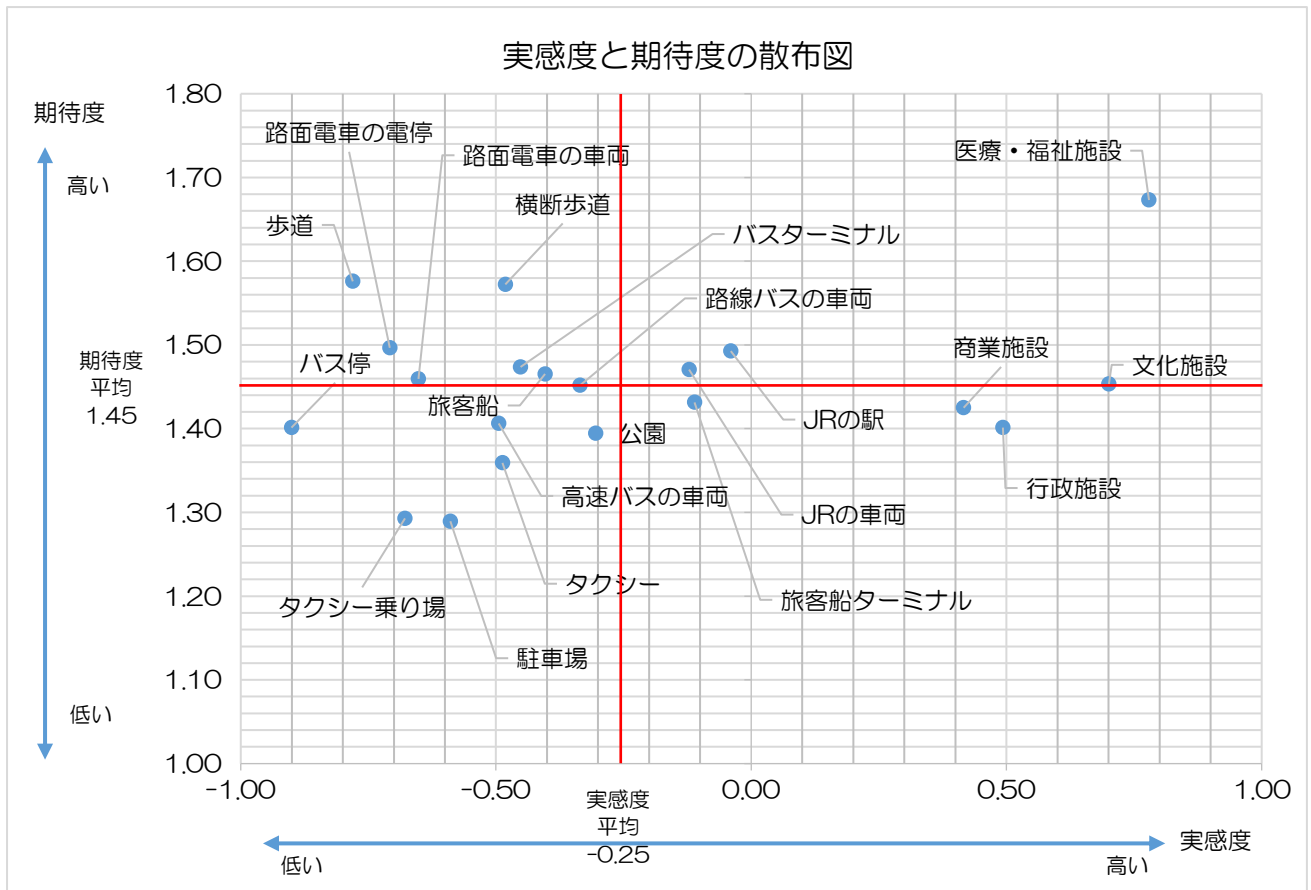
$$\text{平均スコア} = \frac{\text{「十分進んだ」回答者数} \times 2 + \text{「まあまあ進んだ」回答者数} \times 1 + \text{「あまり進んでいない」回答者数} \times -1 + \text{「ほとんど進んでいない」回答者数} \times -2}{\text{回答者総数}(n) - \text{「利用しないので分からない」の回答者数}}$$

問40～問59：「バリアフリー化が進むと、どの程度便利になるとと思いますか」

→バリアフリー化への「期待度」

上記の問18～問37の場合と同様に、次のとおり「平均スコア」を算出する。

$$\text{平均スコア} = \frac{\text{「とても便利になる」回答者数} \times 2 + \text{「まあまあ便利になる」回答者数} \times 1 + \text{「あまり進便利にならない」回答者数} \times -1 + \text{「ほとんど便利にならない」回答者数} \times -2}{\text{回答者総数}(n) - \text{「利用しないので分からない」の回答者数}}$$



平均スコア散布図から、期待度が平均を大きく上回る施設は「医療・福祉施設」、「横断歩道」、「歩道」であることがわかりました。このうち、実感度が最も高い施設は「医療・福祉施設」、最も低い施設は「歩道」となっています。

このことから、バリアフリー化が望まれる施設のうち、バリアフリー化が進んでいる施設は「医療・福祉施設」、バリアフリー化が進んでいない施設は「歩道」であることがわかりました。